

風と遍路は 10 時から

河野真理

「地球温暖化」と言われて久しい。「京都議定書」は、もはや虚しい。

改めて 先進国だけでなく途上国も含めての 196 ヶ国が、国連気候変動枠組み条約の第 21 回締結国会議《COP21》に参加し「パリ協定」を採択したのはつい先日である。冒頭私が何故こんなことを書き始めたかということ、やはりこれも先日の大雨が気になるからだ。温暖化で大気中に水が充満していそう。

吉野川河口域、ここ徳島の冬は、本来、からっ風が吹き、晴天が続き、気象上の注意は「異常乾燥注意報」で、火の用心をというものだった。夜中は、冴えわたる星々と「天魔波旬*の慟哭」と秘かに私が呼んでいた、強風に戸がきしみ、その中で眠るのが常だった。夏期には朝凧の後、海風が吹き、夕凧の後、夜には陸風が吹く。季節は明瞭であった。《これも吉野川の東流で一層顕著である》

東流する吉野川には、北に中央構造線たる阿讃山脈の麓に沿って、古代の南海道《撫養・石濃(いその)・郡頭(こうず)》の駅が存在し、また、四国遍路の道も重なる。《一番霊山寺から三番金泉寺まで》また十番札所切幡寺まではこの山麓をさらに西行することとなる。

そして、この板野地方《古くは撫養までも、また上流までも広がる地域》には、「風と遍路は 10 時から」ということばがあるそうだ。朝凧の後 10 時頃から風が吹き始め、お遍路さんも動き始める。

さらに新たな珍客が飛来した。コウノトリである。県が定めた「コウノトリ鳥獣保護区」も、旧吉野川と南海道に北・南・東が沿う。この地で、私はかつて、カメの道路横断に長い一旦停止をしたことがあった。古代から現代まで吉野川《含旧吉野川》は、素晴らしい。気候変動によってこの素晴らしい河口域がどうなっていくのか・・・葦原、湿田、蓮田、クリーク。

※天魔波旬 仏教の修行を妨げるとされている悪魔のこと。



遠くから静かに
見守ってね!!!

